

農地パトロール活動の 実施について

下北山村農業委員会

1. 下北山村の農業の概要

下北山村は奈良県の東南端、紀伊半島の中央部に位置し、気候は一年を通して温暖な表日本型の特色を示します。しかし、高峰では春先まで根雪が残り、寒の頃にはそれが冷たい季節風となって麓に吹き下ろすことがあります。

豊かな自然と森林資源に恵まれ、昔から村の基幹産業として林業が長い間位置づけられてきましたが、農業については、ほとんどの農家が自家消費分を耕作しているような状態です。

しかし、近年急速な過疎化や高齢化に伴い、農業の担い手が減少しており、遊休農地の増加やシカやサル、イノシシ、アナグマといった有害獣の被害により生産意欲を阻害されており、多くの農業者を悩ませています。

2. 農業委員会の取り組み

①具体的な取り組み内容

下北山村農業委員会では、高齢化による担い手の減少や遊休農地の増加が課題となる中、地域の状況把握や啓発活動を目的として、農地パトロール（利用状況調査）活動を実施しています。農業委員会総会で、農地パトロール実施の趣旨及び目的を確認し、各地区の利用状況を調査してもらい、その結果を報告することになっています。



②取り組みに当たっての課題

急速な過疎化と高齢化により後継者不足が遊休農地を増大させている。特に獣害が深刻な問題となっており、生産者の生産意欲を阻害している。村においても猟友会と連携をとりながら有害獣捕獲対策を行っているが、今後も被害対策を実施しながら後継者等の担い手を確保し遊休農地を解消することが大きな課題である。

③課題への対応方策

今後遊休農地の解消活動を実施するうえで、パトロール活動と共に解消方策を検討することが重要である。

